

日本・マレーシア学生交流キャンプ （バディ・システム）

～ 次世代のアジア・グローバルリーダーを育成する体験型教育プログラム～

作成者：Soon Zheng Dong

作成日：2026年2月8日

※為替換算：1 MYR ≒ 30 円で試算（概算）

目次

目次.....	2
1. 事業コンセプト.....	3
2. 本事業の戦略的意義.....	3
3. プログラム構成案.....	4
3.1 参加者および体制.....	4
3.2 主要アクティビティ.....	4
4. 収益モデルおよびコスト試算（2週間・40名開催時）.....	5
4.1 コスト内訳（1名あたり推定）.....	5
4.2 利益シミュレーション.....	5
5. 多角的な収益機会と拡張性.....	6
6. 結論.....	6

1. 事業コンセプト

マレーシアと日本の学生を「1対1のバディ」としてペアリングし、言語学習、異文化理解、共同プロジェクトを行う体験型交流プログラムです。

- 開催形態：夏期・冬期キャンプ（2～4週間）
- 宿泊スタイル：日本人家庭へのホームステイ、または大学寮・キャンプ施設
- 核心的価値：単なる語学研修を超えた「深い異文化理解」と「イノベーション創出」の両立

2. 本事業の戦略的意義

- **アカデミックな利点**
言語イマージョン、異文化コミュニケーション能力の向上、グローバル・マインドセットの形成。
- **日本側のメリット（MEXT 政策との合致）**
文部科学省の国際化方針に準拠。日本人学生への英語実践機会の提供。
- **マレーシア側のメリット**
海外露出による学生のグローバルな視野拡大、および卒業後の雇用競争力（Employability）の強化。
- **SDGs への貢献**
目標 4「質の高い教育」および目標 17「パートナーシップ」の推進。

3. プログラム構成案

3.1 参加者および体制

- 構成：日本人学生 20 名 + マレーシア人学生 20 名（計 40 名）
- 体制：各国 1 名ずつの「1 対 1 バディ・システム」を導入

3.2 主要アクティビティ

- 言語・スキル：実践英語・日本語ワークショップ、コミュニケーション研修
- 体験・探索：歴史都市（京都等）や地方農村へのフィールドワーク、文化体験
- 成果発表：最終日に「アジアの課題解決」をテーマにしたチームプレゼンテーションを実施

4. 収益モデルおよびコスト試算（2週間・40名開催時）

1名あたりの参加費を RM 10,000（300,000円）と設定した場合のモデルである。

4.1 コスト内訳（1名あたり推定）

項目	金額 (RM)	備考
航空券（往復）	RM 2,000 ~ 3,000 (60,000 ~ 90,000円)	キャリア・時期により変動
宿泊・食費	RM 1,400 (42,000円)	ホームステイ ¥3,300/泊 × 14日換算
授業・活動費	RM 1,000 (30,000円)	講師、教室 ワークショップ費用
国内移動・遠足	RM 500 (15,000円)	バス、鉄道利用料
保険・事務	RM 300 (9,000円)	海外旅行保険、事務手数料
合計	RM 5,200 ~ 6,200 (156,000 ~ 186,000円)	—

4.2 利益シミュレーション

- 総売上（40名）： RM 400,000（12,000,000円）
- 総原価（40名）： RM 240,000（7,200,000円）
- 営業利益： RM 160,000（4,800,000円） / キャンプ
 - 年2回開催で年間 RM 320,000（9,600,000円）の利益。

5. 多角的な収益機会と拡張性

- **日本人学生からの参加費**
「国内イマージョン研修」として1名3~5万円程度の参加費を受領。
- **助成金・スポンサーシップ**
文科省助成金、ASEAN教育基金、日系グローバル企業のCSR資金の獲得。
- **プレミアム・オプション**
アニメスタジオ見学、最先端AIラボ訪問、テーマパーク（USJ等）への追加ツアー販売。

6. 結論

最大の特徴は、独自の**「バディ・システム」**にある。従来のプログラムが陥りがちな「留学生同士だけの交流」を打破し、1対1の深い対話を通じて、一生続く国際的ネットワークを学生に提供する。これは単なる旅行ではなく、アジアの未来を担う人材への投資である。